2024 第１号 5月27日発行	# 就職ガイド	南部農林高校 進路指導部 就職担当

少しでも早いスタートを切ろう！

５月末となり、三者面談期間も終盤となりました。１年生は高校生活慣れましたか。2、3年生は自分の将来の目標が定まりつつありますか？今年度も4月の早い段階から企業の採用担当者による学校訪問が始まっています。自分が納得できる進路選択ができるように少しでも早く動きましょう。この就職ガイドでは、就職に関するさまざまな情報を提供したり、社会人となった本校の卒業生の活躍などを紹介していきます。

建設業界が変わります

建設業界も働き方改革！

その1　新3K

「給与が良い・休暇がある・きつくない」

男性職場というイメージのある建設業界ですが、女性も働きやすい環境を整えていて、男女問わず採用するようになっています。

「事務で採用されたけど現場に出たい」という女性もおり、キャリア面においても建設業協会が支援するようになっています。　（次ページの新聞記事へ）

その2　資格が取りやすくなる

「施工管理技術検定」の一次検定

これまで建築業界で一定年数を務めないと受検できなかった検定ですが、一次検定には１級は１９歳以上、2級は１７歳以上で受検できるようになりました！

その3　東海工業専門学校金山校との連携

建設企業に就職して、進学（入校）できる

いま建設業界は、この産業に興味のある人を出身校・男女を問わず広く採用しています。

企業に入職して給与をもらいながら、「進学して資格がとれる」という仕組みをつくっています。

経済的な理由から進学支援を受けたい人は、対象企業を調べて見ましょう。（進路室に相談）

（１）琉球新報（経済面）　2024 年(令和 6 年)　5 月 23 日　木曜日　の記事です。

建設業、女性が働きやすく

県協会が「部会」、人材確保へ

キャリア支援、業界の魅力発信

建設現場で働く女性従業員。県建設業協会は女性の雇用環境改善による就業者拡大を目指す（県建設業協会青年部会提供）

県建設業協会（津波達也会長）は年度内に女性部会を立ち上げる。直近の課題である人手確保や高度な技能を持つ担い手育成のために、女性が働きやすい環境を整えることに力を入れる。業界に対する「男性職場」のイメージを払拭し、魅力的な業界として発信を強めたい考え。女性部会のメンバーは、既に業界に携わる女性を中心に構成し、出産などさまざまなライフステージに応じたキャリア計画の支援や、働く環境の改善などの政策立案を担う予定だ。

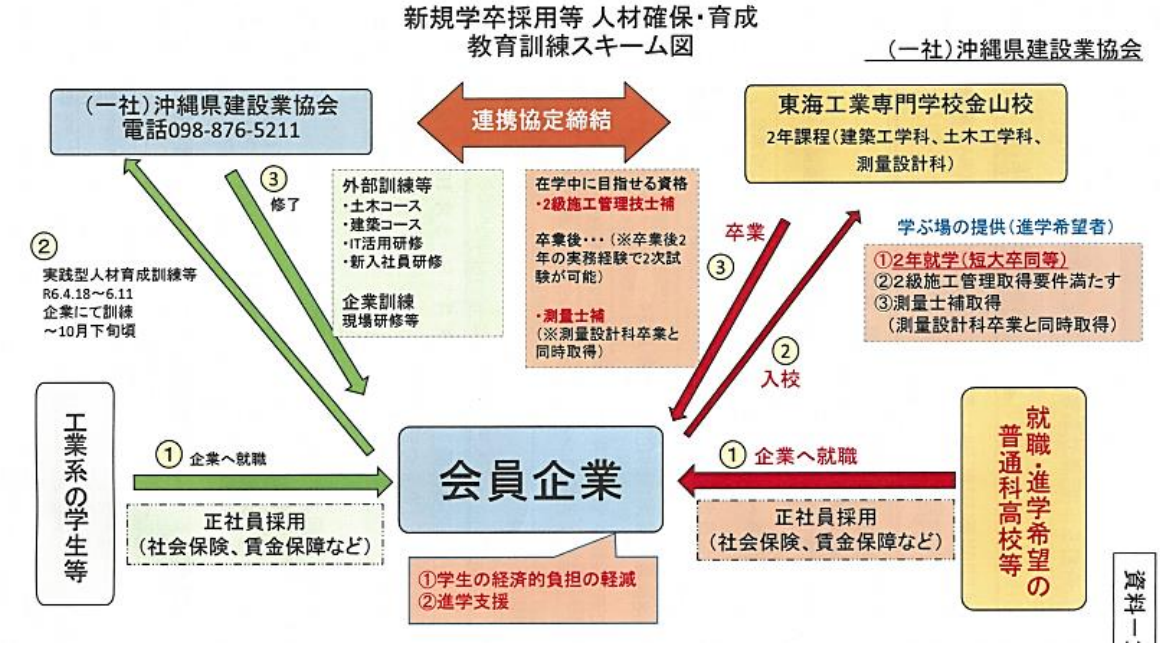
特に現場の技術者で男性比率が高い建設業。現場に男性用のトイレや更衣室などしかないといった状況が続いてきたが、近年は県内企業でも女性用を設置する動きが出てきた。現場管理などを任される女性も少しずつ増えてきたという。

県労働力調査による と、2023年度の県内建設業従事者は6万6千人で、前年度比7・0%減った。一方、女性はうち1万人。全体に占める割合は15%にとどまるものの、前年度と同数を維持しており、底堅さを見せた。

「きつい、汚い、危険」（3K）と揶揄された時代もあったが、24年度から始まった業界の残業時間規制などで、労働時間の短縮や週休2日制の導入が進む見込み。協会は近年の「3K」職場の改善による女性の就業加速に期待を寄せる。重機の無人化施工やドローンなど最新技術の活用も進み、安全性や快適性も上がってきた。

キャリア形成面では、現在事務職に就いている女性社員が「現場に出たい」と技術職への配属を希望し、技術者が出産や育児の都合で数年間、内勤の事務職を希望する事例が報告されていることから、生活設計に応じて職種を入れ替えるなどキャリア支援策も整える。

業種別の所得水準で見ても、建設業は県内でも高い水準にある。協会の源河忠雄専務理事は「業界全体で働く環境の改善を進め、魅力的な業界になってきたと自負している。給料が高く、休暇があり、きつくない・危険じゃないの『新3K』を発信していきたい」と、新たな人材確保へ女性部会設立の意義を強調し、業界の底上げに期待を掛けた。

（島袋良太）

（２）業界団体の取り組みについて（東海工業専門学校との連携）